

過年度評価対象地区の事業完了後の報告（細目様式3）

資料1

整理番号	事前評価	着手年度	完了年度	事業名	地区名
1	H18 (2006)	H20 (2008)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(畑地帯総合整備)	ケネカ
2	H19 (2007)	H21 (2009)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(経営体育成基盤整備)	しんたかくらきた 新高倉北
3	H19 (2007)	H21 (2009)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(経営体育成基盤整備)	たくしん 拓新
4	H19 (2007)	H21 (2009)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(経営体育成基盤整備)	とうわ 東和
5	H19 (2007)	H21 (2009)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(地域水田農業再編緊急整備)	しんほくぶ 新北部
6	H19 (2007)	H21 (2009)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(経営体育成基盤整備)	なよろひがし 名寄東
7	H20 (2008)	H22 (2010)	H30 (2018)	道営農用地造成事業費(草地整備)	かみさほろにし 上佐幌西
8	H20 (2008)	H22 (2010)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(経営体育成基盤整備)	しんたかくら 新高倉
9	H20 (2008)	H22 (2010)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(経営体育成基盤整備)	かねこ 金子
10	H20 (2008)	H22 (2010)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(経営体育成基盤整備)	すもとちゅうおう 洲本中央
11	H20 (2008)	H22 (2010)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(経営体育成基盤整備)	とよさわ 豊沢
12	H21 (2009)	H23 (2011)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(畑地帯総合整備)	しかおいびまん 鹿追美蔓
13	H21 (2009)	H23 (2011)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(畑地帯総合整備)	みなみへいわだい2 南平和第2
14	H22 (2010)	H24 (2012)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(畑地帯総合整備)	きたみかわみなみ 北見川南
15	H22 (2010)	H24 (2012)	H30 (2018)	道営土地改良事業費(畑地帯総合整備)	いけだ ほくぶ ひがし 池田北部東

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
 中段：事業採択時
 直近の再評価時
 下段：事業完了時

整理 ID	所管部	事業種別	(ふりがな) 地区名	市町村名	事業 着手 年度	完了 予定 年度	事業内容	総事業費 (百万円)	成果・効果 等	摘要
1	農政部	道営土地改良事業費 (畑地帯総合整備)	ほろか クネカ	中標津町	H20 (2008)	H24 (2012)	○受益面積 8,195ha ○受益戸数 124戸 ○整備工種 ・配水管路 60km ・配水池 3カ所	1,530	【事業内容の変更理由】 ・再評価時点からは大きな変更はなし 【総事業費の変更】 ・労務費等の上昇により、総事業費が311百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.77 → 最終 1.77 ・再評価時点からの変更はなし ○営農用水施設管理者への聞き取り（中標津町） ・本地区整備により、漏水量の減少は顕著であり、薬品使用量の低減も図られた。 また、有収率も整備前の69%からH30年度末には82.9%と飛躍的に伸び、 これにより、安定した水量供給や維持管理の省力化が図られ、 より効率的な施設運営が可能となった。	
					H20 (2008)	H29 (2017)	○受益面積 8,046ha ○受益戸数 119戸 ○整備工種 ・配水管路 74km ・配水池 3カ所 ・取水施設 1カ所 ・浄水施設 1カ所	3,871		
					H20 (2008)	H30 (2018)	○受益面積 8,046ha ○受益戸数 119戸 ○整備工種 ・配水管路 74km ・配水池 3カ所 ・取水施設 1カ所 ・浄水施設 1カ所	4,182		

○整備前

- ・営農用水施設の老朽化により管体や継手部のからの漏水が著しく、また、配水池などの施設も錆による操作不良が生じるなど、必要な用水量が確保出来ない状況であった。

○整備後

- ・営農用水施設の更新・整備により、営農コストの抑制が図られるとともに、地区内の約9,000頭の乳牛の安定した生乳生産を確保するなど、酪農経営の安定化が図られている。



管路の漏水

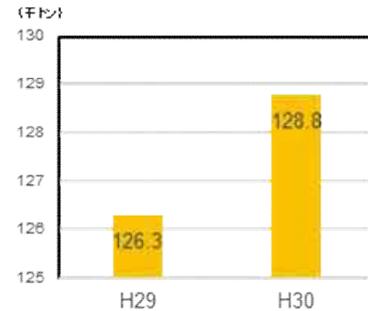


錆等による操作不良

基盤整備



中標津町農協管轄内の生乳生産量



※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字（各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR）を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
 中段：事業採択時
 直近の再評価時
 下段：事業完了時

整理 加算 年度	所管部	事業種別	(ふりがな) 地区名	市町村名	事業 着手 年度	完了 予定 年度	事業内容	総事業費 (百万円)	成果・効果等	摘要
2	農政部	道営土地改良事業費 (経営体育成基盤整備)	しんちかくらきた 新高倉北	新條津村	H21 (2009)	H25 (2013)	○受益面積 273ha ○受益戸数 25戸 ○整備工種 ・区画整理A=137ha ・用水路L=6,617m ・排水路L=1,140m ・暗渠排水A=121ha ・客土A=91ha	1,500	【事業内容の変更理由】 ・離農により受益戸数が25戸から22戸に減少した。 ・深水かんがいに対応できるよう、畦畔を築立する要望のあったほ場について、暗きょ排水又は客土工種から区画整理工種へ変更した。 ・営農計画の変更により、大型機械が利用できる効率的な区画に整備する要望があり、区画整理面積が増加した。 【総事業費の変更】 ・区画整理事業量の増に伴い、総事業費が641百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.41 → 最終 1.15 ・事業費の増加に伴う総費用の増加 ・時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額が変更となった。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 93.4% → 事業完了後 97.0% ・本事業の実施により、集積率が高水準で維持された。 ・狭小で排水不良だったほ場条件の改善が図られ、効果的かつ安定的な農業経営に繋がっている。 ○主要作物の収量（アンケート調査結果） ・アンケート調査を実施し、19戸から回答を得た。 ・水稲、小麦等の作物について、1～1.5割程度増収したという意見があった。 ・収量は実施前と変わらないという意見もあった。 ○作業時間（アンケート調査結果） ・アンケート調査を実施し、19戸から回答を得た。 ・1～2割程度の軽減があったとの意見が多かった。 ・最大で3割軽減されたという意見もあった。 ・大型機械の導入が可能になり、省力化が図られたという意見があった。 ○その他（アンケート調査結果） ・排水性が改善され、降雨後は速やかに作業を行えるようになった。 ・排水性が改善され、作付作物の制約が減ったなど整備の効果があつたとする意見が多かった。 ・整備した結果、ICTを導入したという意見があった。 ・適期の工事を要望する。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が 耕作する面積の割合
					H21 (2009)	H26 (2014)	○受益面積 292ha ○受益戸数 25戸 ○整備工種 ・区画整理A=209ha ・用水路L=6,582m ・排水路L=797m ・暗渠排水A=59ha ・客土A=52ha	1,510		
					H21 (2009)	H30 (2018)	○受益面積 292ha ○受益戸数 22戸 ○整備工種 ・区画整理A=261ha ・用水路L=6,443m ・排水路L=677m ・暗渠排水A=20ha ・客土A=20ha	2,151		
○整備前 ・用水施設の老朽化が進み、漏水が激しく、水管理や維持補修に多大な労力がかかっていた。 ・区画が狭小であり、効率的な農作業が困難であった。					○整備後 ・用水路の整備を行い、区画を大区画化したことで、維持管理労力が軽減され、効率的な農作業が可能となった。					
										
										

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字（各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR）を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
中段：事業採択時
直近の再評価時
下段：事業完了時

整理 ID	所管部	事業種別	(ふりがな) 地区名	市町村名	事業 着手 年度	完了 予定 年度	事業内容	総事業費 (百万円)	成果・効果等	摘要
4	農政部	道営土地改良事業費 (経営体育成基盤整備)	とうろ 果和	厚真町	H21 (2009)	H26 (2014)	○受益面積 180ha ○受益戸数 44戸 ○整備工種 ・区画整理A=180ha	1,660	【事業内容の変更理由】 ・新たな耕作者への土地売買があり、受益戸数が43戸から45戸に増加した。 ・詳細設計の結果、ほ場切盛の土工量が想定より多く、工事費が増大したほ場について、受益者から取り止めの意向があり、区画整理面積が減少した。 【総事業費の変更】 ・区画整理事業量の減に伴い、総事業費が238百万円減少した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.16 → 最終 1.11 ・時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額が変更となった。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 67.5% → 事業完了後 83.8% ・本事業の実施により、集積率が大幅に向上した。 ・狭小で排水不良だったほ場条件の改善が図られ、効果的かつ安定的な農業経営に繋がっている。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が 耕作する面積の割合
					H21 (2009)	H26 (2014)	○受益面積 174ha ○受益戸数 43戸 ○整備工種 ・区画整理A=174ha	2,150		
					H21 (2009)	H30 (2018)	○受益面積 166ha ○受益戸数 45戸 ○整備工種 ・区画整理A=166ha	1,912		

○整備前

- 区画形状が小さく、ほとんどが用排兼用土水路であるため、農作業の不効率や農地の湿害、水管理に苦慮している。



ほ場滞水状況

基
盤
整
備

○整備後

- 大区画化及び排水性の改善により、大型機械による農作業効率や生産性が向上し、高収益作物（カボチャ）栽培が可能となった。



カボチャの栽培

※アンケート調査未実施（震災のため）

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字（各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR）を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
 中段：事業採択時
 直近の再評価時
 下段：事業完了時

整理部	所管部	事業種別	(ふりがな) 地区名	市町村名	事業着手年度	完了予定年度	事業内容	総事業費 (百万円)	成果・効果等	摘要
3	農政部	道営土地改良事業費 (経営体育成基盤整備)	たしな 拓新	新條津村	H21 (2009)	H25 (2013)	○受益面積 271ha ○受益戸数 29戸 ○整備工種 ・区画整理A=116ha ・水路L=4,579m ・排水路L=1,950m ・暗渠排水A=139ha ・客土A=117ha	1,400	【事業内容の変更理由】 ・離農により受益戸数が30戸から26戸に減少した。 ・深水かんがいに対応できるよう、畦畔を築立する要望のあったほ場について、暗きょ排水又は客土工種から区画整理工種へ変更した。 ・営農計画の変更により、大型機械が利用できる効率的な区画に整備する要望があり、区画整理面積が増加した。 【総事業費の変更】 ・区画整理事業量の増に伴い、総事業費が558百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.42 → 最終 1.28 ・事業費の増加に伴う総費用の増加 ・時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額が変更となった。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 95.1% → 事業完了後 96.1% ・本事業の実施により、集積率が高水準で維持された。 ・狭小で排水不良だったほ場条件の改善が図られ、効果的かつ安定的な農業経営に繋がっている。 ○主要作物の収量 (アンケート調査結果) ・アンケート調査を実施し、21戸から回答を得た。 ・水稲、小麦等の作物について、1～1.5割程度増収したという意見が多かった。 ・収量は実施前と変わらないという意見もあった。 ○作業時間 (アンケート調査結果) ・アンケート調査を実施し、21戸から回答を得た。 ・1～2割程度の軽減があったとの意見が多かった。 ・最大で3割軽減されたという意見もあった。 ・大型機械の導入が可能になり効率化が図られたという意見があった。 ・水管理の効率化が図られたとの意見が多かった。 ○その他 (アンケート調査結果) ・排水性が改善され、適期作業を行えるようになった。 ・整備により直播の導入が可能になった。 ・ほ場が区画拡大されたため、今後はICT農業を導入したい。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が耕作する面積の割合
					H21 (2009)	H26 (2014)	○受益面積 271ha ○受益戸数 30戸 ○整備工種 ・区画整理A=140ha ・水路L=6,012m ・排水路L=1,548m ・暗渠排水A=116ha ・客土A=95ha	1,420		
					H21 (2009)	H30 (2018)	○受益面積 263ha ○受益戸数 26戸 ○整備工種 ・区画整理A=226ha ・水路L=5,825m ・排水路L=1,382m ・暗渠排水A=34ha ・客土A=17ha	1,978		
○整備前 ・用水施設の老朽化が進み、漏水が激しく、水管理や維持補修に多大な労力がかかっていた。 ・区画が狭小であり、効率的な農作業が困難であった。					○整備後 ・水路の整備を行い、維持管理労力が軽減が図られた。 ・集中管理孔の整備により、暗渠の長寿命化が可能となり、転作も容易となった。					
										
										

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字(各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR)を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
中段：事業採択時
直近の再評価時
下段：事業完了時

整理番号	所管部	事業種別	(ふりがな)地区名	市町村名	事業着手年度	完了予定年度	事業内容	総事業費(百万円)	成果・効果等	摘要
5	農政部	道営土地改良事業費 (地域水田農業再編緊急整備)	しんほくぶ 新北部	新十津川町	H21 (2009)	H26 (2014)	○受益面積 1,268ha ○受益戸数 134戸 ○整備工種 ・区画整理A=168ha ・用水路L=41,450m ・排水路L=7,360m ・農道L=2,810m	2,606	【事業内容の変更理由】 <ul style="list-style-type: none"> ・雑農により受益戸数が92戸から87戸に減少した。 ・営農計画の変更により、大型機械が利用できる効率的な区画に整備する要望があり、区画整理面積が増加した。 ・深水かんがいに対応できるよう、畦畔を築立する要望のあったほ場について、暗きょ排水又は客土工種から区画整理工種へ変更した。 ・既存の揚水機場が頻繁に故障し、用水安定供給のため改修を追加した。 【総事業費の変更】 <ul style="list-style-type: none"> ・区画整理事業量増及び揚水機場改修に伴い、総事業費が1,105百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 2.93 → 最終 2.03 <ul style="list-style-type: none"> ・事業費の増加に伴う総費用の増加 ・時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額が変更となった。 	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が耕作する面積の割合
					H21 (2009)	H26 (2014)	○受益面積 702ha ○受益戸数 92戸 ○整備工種 ・区画整理A=195ha ・用水路L=38,138m ・排水路L=4,079m ・暗渠排水L=104ha ・客土A=14ha	2,780		
					H21 (2009)	H30 (2018)	○受益面積 738ha ○受益戸数 87戸 ○整備工種 ・区画整理A=360ha ・用水路L=37,644m ・排水路L=3,635m	3,885		
○整備前 <ul style="list-style-type: none"> ・泥炭土壌であり、排水不良の土壌が広く分布している地域であるため、畑作物に湿害が発生し、野菜等の高収益作物の安定生産が難しかった。 					○整備後 <ul style="list-style-type: none"> ・湿害解消により水田の汎用化が進んだ。 ・集中管理孔方式の暗渠排水整備を契機に米の直播栽培が可能となった。 ・高収益作物の作付面積が拡大した。 					
 <p>ほ場滞水状況</p>					 <p>基盤整備</p>					
 <p>直播栽培状況</p>										
○担い手農地利用集積率 事業実施前 71.0% → 事業完了後 79.6%					<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実施により、集積率が向上した。 ・狭小で排水不良だったほ場条件の改善が図られ、効果的かつ安定的な農業経営に繋がっている。 					
○主要作物の収量(アンケート調査結果)					<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査を実施し、42戸から回答を得た。 ・水稲について、1～2割程度増収したという意見が多かった。 ・収量は実施前と変わらないという意見もあった。 					
○作業時間(アンケート調査結果)					<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査を実施し、42戸から回答を得た。 ・1～3割程度の軽減があったとの意見が多かった。 ・最大で4割軽減されたという意見もあった。 ・水管理の省力化が図られたという意見が多かった。 					
○その他(アンケート調査結果)					<ul style="list-style-type: none"> ・排水性が改善され品質の向上が図られたとの意見があった。 ・暗渠排水の整備により、地下かんがいが可能になったとの意見があった。 					

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字(各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR)を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
中段：事業採択時
直近の再評価時
下段：事業完了時

整理番号	所管部	事業種別	(ふりがな)地区名	市町村名	事業着手年度	完了予定年度	事業内容	総事業費(百万円)	成果・効果等	摘要
6	農政部	道営土地改良事業費 (経営体育成基盤整備)	なよろひがし 名寄東	名寄市	H21 (2009)	H26 (2014)	○受益面積 264ha ○受益戸数 18戸 ○整備工種 ・区画整理A=244ha ・水路L=8,350m ・排水路L=1,580m ・農道L=1,800m ・暗渠排水A=16ha	3,000	【事業内容の変更理由】 ・離農により受益戸数が16戸から14戸に減少した。 【総事業費の変更】 ・地域から想定以上の離農が生じ、農地を引き受けた農家の経営規模が拡大した結果、更なる省力化が必要となり、大区画化することによる切盛土量の大幅な増に伴い、総事業費が1,514百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.35 → 最終 1.02 ・事業費の増加に伴う総費用の増加 ・時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額が変更となった。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 88.2% → 事業完了後 95.2% ・本事業の実施により、集積率が向上した。 ・狭小で排水不良だったほ場条件の改善が図られ、効果的かつ安定的な農業経営に繋がっている。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が 耕作する面積の割合
					H21 (2009)	H26 (2014)	○受益面積 268ha ○受益戸数 16戸 ○整備工種 ・区画整理A=268ha	3,680		
					H21 (2009)	H30 (2018)	○受益面積 264ha ○受益戸数 14戸 ○整備工種 ・区画整理A=264ha	5,194		

○整備前

- ・区画形状が小さく作業効率が悪い
- ・水路の破損・切深不足により隣接農地に湿害が発生



基盤整備

○整備後

- ・大区画化及び排水性の改善により、大型機械による農作業効率や生産性が向上した。
- ・余剰労力を活用し、6次産業化の取組や高収益作物の直売が実施された。



ソフト大福



風連おかき

○主要作物の収量 (アンケート調査結果)

- ・アンケート調査を実施し、4戸から回答を得た。
- ・水稲、小麦等の作物について、0.5~2割程度増収したという意見であった。

○作業時間 (アンケート調査結果)

- ・アンケート調査を実施し、4戸から回答を得た。
- ・1.5~3割程度の軽減があったとの意見であった。

○その他 (アンケート調査結果)

- ・水管理や大雨時の被害軽減に効果があったとの意見であった。
- ・整備により規模拡大ができたとの意見があった。

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字(各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR)を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
中段：事業採択時
直近の再評価時
下段：事業完了時

整理番号	所管部	事業種別	(ふりがな)地区名	市町村名	事業着手年度	完了予定年度	事業内容	総事業費(百万円)	成果・効果等	摘要
7	農政部	道管農用地造成事業費(草地整備)	かみきほろにし上佐幌西	新得町	H22(2010)	H27(2015)	○受益面積 1,226ha ○受益戸数 40戸 ○整備工種 ・草地整備改良 729ha ・道路整備 3,000m ・雑用水施設整備 10,000m ・隔障物整備 10,000m ・家畜保護施設整備 1棟 ・飼料調製貯蔵施設整備 1棟 ・家畜排せつ物処理施設整備 1棟 ・牧場用機械施設整備 11台	1,400	【成果・効果】 OB/C 当初 3.32 → 最終 2.30 ・工法変更に伴う総事業費の増加 ・時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額が変更となった。 ○主要作物の収量 ・公共牧場管理者から聞き取りの結果、牧草収量について、2割～3割程度増収した。 ○牧場家畜飼養計画(預託頭数) 事業実施前 2,505頭 → 事業実施後 3,870頭 ・公共牧場管理者から聞き取りの結果、概ね計画どおり推移している。 ○整備前 ・ほ場の不陸や排水不良の影響により飼料の効率的な生産が困難となっており、低コストで安定的な自給飼料の確保や、経営規模の拡大に支障をきたしていた。  起伏の状況  ほ場滞水状況 ○整備後 ・当事業によりほ場の起伏修正や暗渠排水等、飼料基盤整備を実施し、また併せて家畜保護施設(畜舎)等の施設整備を行ったことにより、経営規模の拡大志向にある預託農家の要望に応えることが可能となった。  起伏修正後の草地  家畜保護施設(育成舎)	
					H22(2010)	H27(2015)	○受益面積 1,407ha ○受益戸数 47戸 ○整備工種 ・草地整備改良 749.7ha ・道路整備 3,179m ・用排水施設整備 10.1ha ・草地造成改良 42.3ha ・牧場基地等基盤整備 3,948㎡ ・隔障物整備 36,230m ・家畜保護施設整備 1棟 ・飼料調製貯蔵施設整備 2基 ・家畜排せつ物処理施設整備 2基 ・牧場用機械施設整備 12台	1,600		
					H22(2010)	H30(2018)	○受益面積 1,427ha ○受益戸数 46戸 ○整備工種 ・草地整備改良 695.6ha ・道路整備 3,126m ・用排水施設整備 9.8ha ・草地造成改良 69.1ha ・牧場基地等基盤整備 3,948㎡ ・隔障物整備 37,032m ・家畜保護施設整備 1棟 ・飼料調製貯蔵施設整備 2基 ・家畜排せつ物処理施設整備 1基 ・牧場用機械施設整備 12台	2,242		
【事業計画の変更理由】 <ul style="list-style-type: none"> 整備ほ場の取止めにより、受益戸数が47戸から46戸に変更となった。 現地調査結果に基づき詳細設計を行った結果、道路整備において法面保護や、道路側溝工法の変更が必要となった。 地質調査の結果、畜舎等建設予定区域において軟弱地盤が確認され、基礎工の追加が必要となった。 【総事業費の変更】 <ul style="list-style-type: none"> 道路整備及び家畜保護施設の工法変更等により、総事業費が642百万円増加した。 										

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字(各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR)を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
 中段：事業採択時
 直近の再評価時
 下段：事業完了時

整理 品目	所管部	事業種別	(ふりがな) 地区名	市町村名	事業 着手 年度	完了 予定 年度	事業内容	総事業費 (百万円)	成果・効果等	摘要
8	農政部	道営土地改良事業費 (経営体育成基盤整備)	しんたかから 新高倉	新篠津村	H22 (2010)	H27 (2015)	○受益面積 210ha ○受益戸数 22戸 ○整備工種 ・区画整理A=121ha ・水路L=1,709m ・排水路L= 220m ・暗渠排水A=88ha ・客土A=45ha	1,070	【事業内容の変更理由】 ・ 離農により受益戸数が23戸から21戸に減少した。 ・ 営農計画の変更により、大型機械が利用できる効率的な区画に整備する要望があり、区画整理面積が増加した。 ・ 深水かんがいに対応できるよう、畦畔を築立する要望のあったほ場について、暗きょ排水又は客土工種から区画整理工種へ変更した。 【総事業費の変更】 ・ 詳細設計の結果、ほ場切盛の土工量が想定より多かったことから、総事業費が224百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.55 → 最終 1.52 ・ 事業費の増加に伴う総費用の増加 ・ 時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額が変更となった。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 95.1% → 事業完了後 95.7% ・ 本事業の実施により、集積率が高水準で維持された。 ・ 狭小で排水不良だったほ場条件の改善が図られ、効果的かつ安定的な農業経営に繋がっている。 ○主要作物の収量（アンケート調査結果） ・ アンケート調査を実施し、19戸から回答を得た。 ・ 水稲、小麦等の作物について、1～2割程度増収したという意見が多かった。 ・ 1割弱ではあるが、収量は実施前と変わらないという意見もあった。 ○作業時間（アンケート調査結果） ・ アンケート調査を実施し、19戸から回答を得た。 ・ 1～2割程度の軽減があったとの意見が多かった。 ○その他（アンケート調査結果） ・ 排水性が改善され、輪作が可能になった。 ・ 水管理や維持管理の低減が図られた。 ・ 基盤整備が規模拡大や担い手の増加につながった。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が 耕作する面積の割合
					H22 (2010)	H27 (2015)	○受益面積 213ha ○受益戸数 23戸 ○整備工種 ・区画整理A=191ha ・水路L=1,932m ・暗渠排水A=21ha ・客土A=4ha	1,190		
					H22 (2010)	H30 (2018)	○受益面積 211ha ○受益戸数 21戸 ○整備工種 ・区画整理A=199ha ・水路L=2,008m ・暗渠排水A=8ha ・客土A=3ha	1,414		
○整備前 ・ 用水施設の老朽化が進み、漏水が激しく、水管理や維持補修に多大な労力がかかっていた。 ・ 区画が狭小であり、効率的な農作業が困難であった。					○整備後 ・ 水路の整備を行い、区画を大区画化したことで、維持管理労力が軽減され、効率的な農作業が可能となった。 ・ 余剰労力を活用し、6次産業化の取組や高収益作物の直売が実施された。					
										
										
										
					しんしの「産直市場」					

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字（各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR）を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
中段：事業採択時
直近の再評価時
下段：事業完了時

整理 加算	所管部	事業種別	(ふりがな) 地区名	市町村名	事業 着手 年度	完了 予定 年度	事業内容	総事業費 (百万円)	成果・効果等	摘要
9	農政部	道営土地改良事業費 (経営体育成基盤整備)	かほこ 金子	岩見沢市	H22 (2010)	H27 (2015)	○受益面積 566ha ○受益戸数 43戸 ○整備工種 ・区画整理A=105ha ・用水路L=25,209m ・排水路L= 9,218m ・暗渠排水A=262ha	3,250	【事業内容の変更理由】 ・新たな耕作者への土地売買があり、受益戸数が44戸から45戸に増加した。 ・営農計画の変更により、大型機械が利用できる効率的な区画に整備する要望があり、区画整理面積が増加した。 ・用水路について、漏水等が確認されたため整備要望があり事業量が増加した。 ・排水路について、暗渠排水落口確保のため事業量が増加した。 【総事業費の変更】 ・区画整理及び用排水路事業量の増に伴い、総事業費が670百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.17 → 最終 1.22 ・事業費の増加に伴う総費用の増加 ・区画整理の増による総便益額の増加。 ・時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額が変更となった。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 73.3% → 事業完了後 79.6% ・本事業の実施により、集積率が向上した。 ・狭小で排水不良だったほ場条件の改善が図られ、効果的かつ安定的な農業経営に繋がっている。 ○主要作物の収量（アンケート調査結果） ・アンケート調査を実施し、17戸から回答を得た。 ・水稲、小麦等の作物について、1～2割程度増収したという意見が多かった。 ・収量の増加に関して、輪作が可能となったとの意見もあった。 ・収量は実施前と変わらないという意見もあった。 ○作業時間（アンケート調査結果） ・アンケート調査を実施し、17戸から回答を得た。 ・1～2割程度の軽減があったとの意見が多かった。 ・最大で3割軽減されたという意見もあった。 ・水管理の効率化が図られた。 ○その他（アンケート調査結果） ・排水性が改善され、長雨でも被害がでなかった。 ・整備を契機に、直播やCTの導入、規模拡大が図られた。 ・排水性が改善され、作物の品質が向上した。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が 耕作する面積の割合
					H22 (2010)	H27 (2015)	○受益面積 585ha ○受益戸数 44戸 ○整備工種 ・区画整理A=396ha ・用水路L=25,035m ・排水路L= 8,290m	3,030		
					H22 (2010)	H30 (2018)	○受益面積 585ha ○受益戸数 45戸 ○整備工種 ・区画整理A=420ha ・用水路L=26,675m ・排水路L=13,029m	3,700		
○整備前 ・泥炭土壌であり、排水不良の土壌が広く分布している地域であるため、畑作物に湿害が発生し、野菜等の高収益作物の安定生産が難しかった。		○整備後 ・湿害解消により水田の汎用化が進んだ。 ・集中管理孔方式の暗渠排水整備を契機に米の直播栽培が可能となった。 ・高収益作物の作付面積が拡大した。								
 <p>排水不良</p>		 <p>玉ねぎの栽培</p>								
 <p>用水路の不陸</p>		 <p>小麦の収穫</p>								
 <p>基盤整備</p>										

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字（各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR）を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
中段：事業採択時
直近の再評価時
下段：事業完了時

整理 品目	所管部	事業種別	(ふりがな) 地区名	市町村名	事業 着手 年度	完了 予定 年度	事業内容	総事業費 (百万円)	成果・効果等	摘要
10	農政部	道営土地改良事業費 (経営体育成基盤整備)	すもとちゅうほう 洲本中央	雨竜町	H22 (2010)	H27 (2015)	○受益面積 175ha ○受益戸数 26戸 ○整備工種 ・区画整理A=175ha	2,944	【事業内容の変更理由】 ・離農により受益戸数が26戸から21戸に減少した。 【総事業費の変更】 ・ほ場切盛の土工量増に伴い、総事業費が644百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.21 → 最終 1.18 ・事業費の増加に伴う総費用の増加 ・時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額が変更となった。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 67.1% → 事業完了後 82.6% ・本事業の実施により、集積率が大幅に向上した。 ・狭小で排水不良だったほ場条件の改善が図られ、効果的かつ安定的な農業経営に繋がっている。 ○主要作物の収量（アンケート調査結果） ・アンケート調査を実施し、19戸から回答を得た。 ・水稲、小麦等の作物について、1割程度増収したという意見が多かった。 ・高収益作物である花卉の生産が拡大した。 ・収量の増加に関して、輪作が可能となったとの意見もあった。 ・収量は実施前と変わらないという意見もあった。 ○作業時間（アンケート調査結果） ・アンケート調査を実施し、19戸から回答を得た。 ・1～2割程度の軽減があったとの意見が多かった。 ・最大で3割軽減されたという意見もあった。 ○その他（アンケート調査結果） ・排水性が改善され、大雨時の被害が軽減された。 ・基盤整備により直播栽培、ICT導入、大型機械の導入、規模拡大が進んだ。 ・深水かんがいが可能になった。 ・水管理や維持管理が軽減された。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が 耕作する面積の割合
					H22 (2010)	H27 (2015)	○受益面積 184ha ○受益戸数 26戸 ○整備工種 ・区画整理A=184ha	2,350		
					H22 (2010)	H30 (2018)	○受益面積 180ha ○受益戸数 21戸 ○整備工種 ・区画整理A=180ha	2,994		
○整備前 ・泥炭土壌であり、排水不良の土壌が広く分布している地域であるため、作業効率が悪く高収益作物の栽培が難しかった。					○整備後 ・湿害解消により水田の汎用化が進んだ。 ・高収益作物の作付面積が拡大した。 ・余剰労力を活用し、6次産業化の取組や高収益作物の直売が実施された。					
					 <p>2ha以上の大区画ほ場</p>					
										

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字（各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR）を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
中段：事業採択時
直近の再評価時
下段：事業完了時

整理 コード	所管部	事業種別	(ふりがな) 地区名	市町村名	事業 着手 年度	完了 予定 年度	事業内容	総事業費 (百万円)	成果・効果 等	摘要
11	農政部	道営土地改良事業費 (経営体育成基盤整備)	結城 豊沢	厚真町	H22 (2010)	H27 (2015)	○受益面積 139ha ○受益戸数 26戸 ○整備工種 ・区画整理A=139ha	1,800	【事業内容の変更理由】 ・離農により受益戸数が31戸から30戸に減少した。 ・営農計画の変更により整備箇所が見直され、区画整理面積が減少した。 【総事業費の変更】 ・変更なし 【成果・効果】 OB/C 当初 1.09 → 最終 1.02 ・時点の変化による諸係数・単価の変更等により、各効果項目の効果額や総費用が変更となった。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 71.5% → 事業完了後 84.4% ・本事業の実施により、集積率が大幅に向上した。 ・狭小で排水不良だったほ場条件の改善が図られ、効果的かつ安定的な農業経営に繋がっている。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が 耕作する面積の割合
					H22 (2010)	H27 (2015)	○受益面積 143ha ○受益戸数 31戸 ○整備工種 ・区画整理A=143ha	3,100		
					H22 (2010)	H30 (2018)	○受益面積 138ha ○受益戸数 30戸 ○整備工種 ・区画整理A=131ha	3,100		

○整備前

- 区画形状が小さく、ほとんどが用排兼用土水路であるため、農作業の不効率や農地の湿害、水管理に苦慮している。

○整備後

- 大区画化及び排水性の改善により、大型機械による農作業効率や生産性が向上した。
- 用排水路を分離したことにより水田単作から畑作転換が可能となった。

基盤整備



※アンケート調査未実施（震災のため）

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字（各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR）を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
 中段：事業採択時
 直近の再評価時
 下段：事業完了時

整理番号	所管部	事業種別	(ふりがな)地区名	市町村名	事業着手年度	完了予定年度	事業内容	総事業費(百万円)	成果・効果等	摘要
12	農政部	道営土地改良事業費 (畑地帯総合整備)	しかのいびまん 鹿追美曇	鹿追町 清水町	H23 (2011)	H28 (2016)	○受益面積 795ha ○受益戸数 55戸 ○整備工種 ・畑地かんがいA=597ha ・区画整理A=46ha ・暗渠排水A=166ha ・土層改良A=37ha	1,500	【事業内容の変更理由】 ・ 離農により、受益戸数が52戸から50戸に変更となった。 ・ 畑地かんがいについて、営農計画の変更により整備を取りやめたため、受益面積が減となった。 ・ 暗渠排水について、窪地のあるほ場で整地工と一体的な整備要望があり、区画整理工種へ移行した。 【総事業費の変更】 ・ 上記の事業量等の増減に伴い、総事業費が126百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.23 → 最終 1.38 ・ 時点の変化に伴う諸係数・単価の変更等による、各効果項目の効果額の変更。 ・ 畑地かんがいの減少による総費用の減少、及び、区画整理の増による総便益の増。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 99% → 事業完了後 99% ・ 本事業の実施により、担い手への農地集積率は高い水準で維持され、ほ場条件の改善が図られることから、担い手農家の効率的かつ、安定的な農業経営に繋がっている。 ○主要作物の収量（アンケート調査結果） ・ アンケート調査を実施し、40戸から回答を得た。 ・ 小麦、ばいしょ、てん菜、豆類等の作物について、1～2割程度増収したという意見が多かった。 ・ にんじん、キャベツといった高収益野菜の生産が拡大した。 ○作業時間（アンケート調査結果） ・ アンケート調査を実施し、40戸から回答を得た。 ・ 1～2割程度の軽減があったとの意見が多かった。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が耕作する面積の割合
					H23 (2011)	H28 (2016)	○受益面積 1,063ha ○受益戸数 52戸 ○整備工種 ・畑地かんがいA=597ha ・区画整理A=334ha ・暗渠排水A=200ha ・土層改良A=23ha	1,735		
					H23 (2011)	H30 (2018)	○受益面積 1,010ha ○受益戸数 50戸 ○整備工種 ・畑地かんがいA=479ha ・区画整理A=495ha ・暗渠排水A=122ha ・土層改良A=11ha	1,861		

○整備前

- ・ 窪地の滞水や排水不良により湿害が発生しており、また、防除用水の手当てに苦慮している農地もある状況。



○整備後

- ・ 区画整理や暗渠排水などを実施し、また、畑地かんがい施設の整備により、作業効率が向上し、野菜等の高収益作物の生産も行われている。



基盤整備

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字（各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR）を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
 中段：事業採択時
 直近の再評価時
 下段：事業完了時

整理 品目	所管部	事業種別	(ふりがな) 地区名	市町村名	事業 着手 年度	完了 予定 年度	事業内容	総事業費 (百万円)	成果・効果等	摘要
13	農政部	道営土地改良事業費 (畑地帯総合整備)	みなみへいわ 南平和第2	芽室町	H23 (2011)	H28 (2016)	○受益面積 627ha ○受益戸数 40戸 ○整備工種 ・区画整理A=365ha ・区画整理A=77ha ・暗渠排水A=273ha ・土層改良A=15ha	1,490	【事業内容の変更理由】 ・当初計画で受益者以外の農家から強い整備要望があり、受益戸数1戸増となった。 ・新たに取得したほ場において、排水対策を実施したいとの要望があり、暗渠排水面積が増加した。 ・暗渠排水について、窪地のあるほ場で整地工と一体的な整備要望があり、区画整理工種へ移行した。 【総事業費の変更】 ・畑地かんがいについて、ほ場に設置する給水栓の位置変更(管路延長増)及び農地整備を行う工種の整備面積の増加等に伴い、総事業費が428百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.71 → 最終 1.60 ・時点の変化に伴う諸係数・単価の変更等による、各効果項目の効果額の変更。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 99% → 事業完了後 100% ・本事業の実施により、担い手への農地集積率は高い水準で維持され、ほ場条件の改善が図られるなど、担い手農家の効率的かつ、安定的な農業経営に繋がっている。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が 耕作する面積の割合
					H23 (2011)	H28 (2016)	○受益面積 814ha ○受益戸数 42戸 ○整備工種 ・畑地かんがいA=369ha ・区画整理A=86ha ・暗渠排水A=516ha ・土層改良A=12ha	2,274		
					H23 (2011)	H30 (2018)	○受益面積 839ha ○受益戸数 43戸 ○整備工種 ・畑地かんがいA=368ha ・区画整理A=107ha ・暗渠排水A=547ha ・土層改良A=11ha	2,702		

○整備前

- ・かんがい施設が未整備のため水不足により作物の生育に支障をきたしており、また、排水不良のほ場が多いため、作業効率も悪い状況。



基盤整備

○整備後

- ・道営事業により畑地かんがい施設を導入したことで水不足が解消され、作物の収量が増加し、また、区画整理や暗渠排水などを実施したことで、作業効率も向上し、野菜等の高収益作物の生産も行われている。

リールマシンの散水状況



収穫したにんにく



枝豆の収穫状況



○主要作物の収量 (アンケート調査結果)

- ・アンケート調査を実施し、25戸から回答を得た。
- ・小麦、ばいしょ、てん菜、豆類等の作物について、1～2割程度増収したという意見が多かった。
- ・やまのいも、にんにくといった高収益野菜の生産が拡大した。
- ・今後、枝豆やいんげんまめの生産を拡大していきたいという意見もあった。
- ・最大で3割収量が増えたとの意見もあった。

○作業時間 (アンケート調査結果)

- ・アンケート調査を実施し、25戸から回答を得た。
- ・1～2割程度の軽減があったとの意見が多かった。
- ・最大で3割軽減されたとの意見もあった。

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字(各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR)を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
 中段：事業採択時
 直近の再評価時
 下段：事業完了時

整理番号	所管部	事業種別	(ふりがな)地区名	市町村名	事業着手年度	完了予定年度	事業内容	総事業費(百万円)	成果・効果等	摘要
14	農政部	道営土地改良事業費 (畑地帯総合整備)	またみかわのみ 北見川南	北見市	H24 (2012)	H29 (2017)	○受益面積 383ha ○受益戸数 51戸 ○整備工種 ・区画整理A=43ha ・農道L=1,800m ・暗渠排水A=225ha ・土層改良A=133ha ・農用地造成A=10ha ・農地保全A=1ha	1,190	【事業内容の変更理由】 ・離農により、受益戸数が55戸から49戸に変更となった。 ・暗渠排水について、窪地のあるほ場で整地工と一体的な整備要望があり、区画整理工種へ移行した。 また、営農計画の変更により、一部の暗渠整備を取りやめることとなった。 ・農道について(3路線)、既設道路との摺り付け位置等の精査により農道延長が減少した。 【総事業費の変更】 ・農道の法面保護工としてふとんかごを追加したこと等により、総事業費が93百万円増加した。 【成果・効果】 OB/C 当初 3.62 → 最終 3.90 ・時点の変化に伴う諸係数・単価の変更等による、各効果項目の効果額の変更。 ・区画整理の事業量の増に伴う総便益の増加。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 98% → 事業完了後 98% ・本事業の実施により、担い手への農地集積率は高い水準で維持され、ほ場条件の改善が図られるなど、担い手農家の効率的かつ、安定的な農業経営に繋がっている。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が耕作する面積の割合
					H24 (2012)	H32 (2020)	○受益面積 404ha ○受益戸数 55戸 ○整備工種 ・区画整理A=46ha ・農道L=2,595m ・暗渠排水A=236ha ・土層改良A=134ha ・農用地造成A=8ha ・農地保全A=1ha	1,340		
					H24 (2012)	H30 (2018)	○受益面積 359ha ○受益戸数 49戸 ○整備工種 ・区画整理 A= 63ha ・農道 L=2,443m ・暗渠排水 A=172ha ・土層改良 A=126a ・農用地造成 A=7ha ・農地保全 A=1ha	1,433		

○整備前

- ・農道について、現況が砂利道のため雪解けや大雨時には路盤が流出し、また、幅員が狭いため農業車両のすれ違いが困難な状況だった。



着工前①

雪解けや大雨時に路盤が流出



着工前②

幅員が狭く、すれ違いが困難

基盤整備

○整備後

- ・舗装整備されたことで農業車両の輸送時間が短縮され、また、荷痛防止により輸送作物の品質向上が図られた。



完成①



完成②

○主要作物の収量(アンケート調査結果)

- ・アンケート調査を実施し、21戸から回答を得た。
- ・小麦、ばいしょ、てん菜、たまねぎ等の作物について、1～2割程度増収したという意見が多かった。
- ・高収益野菜のたまねぎの生産が拡大した。
- ・今後、スイートコーンの生産を拡大していきたいという意見もあった。
- ・最大で4割収量が増えたとの意見もあった。

○作業時間(アンケート調査結果)

- ・アンケート調査を実施し、21戸から回答を得た。
- ・1～2割程度の軽減があったとの意見が多かった。

※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字(各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR)を記入してください。

過年度評価対象地区の事業完了後の報告

(細目様式3)

上段：事前評価時
中段：事業採択時
直近の再評価時
下段：事業完了時

評価年度	所管部	事業種別	(ふりがな)地区名	市町村名	事業着手年度	完了予定年度	事業内容	総事業費(百万円)	成果・効果等	摘要
15	農政部	道営土地改良事業費 (畑地帯総合整備)	いけだほくふびがし 池田北部東	池田町	H24 (2012)	H29 (2017)	○受益面積 417ha ○受益戸数 39戸 ○整備工種 ・農道L=4,900m ・排水路L=740m ・区画整理A=8ha ・暗渠排水A=317ha ・土層改良A=32ha	1,300	【事業内容の変更理由】 ・離農により、受益戸数が34戸から32戸に変更となった。 ・暗渠排水について、窪地のあるほ場で整地工と一体的な整備要望があり、区画整理工種へ移行した。 また、営農計画の変更により、一部の暗渠整備を取りやめることとなった。 ・農道について、一部の路線において、農道より広い幅員の道路として、町が整備することとなり、本地区での整備を取りやめた。 【総事業費の変更】 ・事業量が減となったことにより、総事業費が127百万円減少した。 【成果・効果】 OB/C 当初 1.67 → 最終 2.68 ・時点の変化に伴う諸係数・単価の変更等による、各効果項目の効果額の変更。 ・事業量の減に伴い、総費用が減少したことによる総費用の減少。 ○担い手農地利用集積率 事業実施前 97% → 事業完了後 97% ・本事業の実施により、担い手への農地集積率は高い水準で維持され、ほ場条件の改善が図られるなど、担い手農家の効率のかつ、安定的な農業経営に繋がっている。 ○主要作物の収量(アンケート調査結果) ・アンケート調査を実施し、24戸から回答を得た。 ・小麦、ばいしょ、てん菜、豆類等の作物について、1～2割程度増収したという意見が多かった。 ・高収益野菜のやまのいもの生産が拡大した。 ・今後、わさびやスイートコーンの生産を拡大していきたいという意見もあった。 ○作業時間(アンケート調査結果) ・アンケート調査を実施し、24戸から回答を得た。 ・1～2割程度の軽減があったとの意見が多かった。 ・最大で5割軽減されたとの意見もあった。	※担い手農地利用集積率 受益面積のうち担い手が耕作する面積の割合
					H24 (2012)	H32 (2020)	○受益面積 347ha ○受益戸数 34戸 ○整備工種 ・農道L=3,373m ・排水路L=722m ・区画整理A=76ha ・暗渠排水A=218ha ・土層改良A=9ha	1,020		
					H24 (2012)	H30 (2018)	○受益面積 291ha ○受益戸数 32戸 ○整備工種 ・農道L=2,275m ・排水路L=722m ・区画整理A=110ha ・暗渠排水A=141ha ・土層改良A=1ha	893		

○整備前

- ・ほ場内に窪地があり、排水不良の状況もあったため、生育不良や作業効率も良くない状況であった。

排水不良の状況



基盤整備

○整備後

- ・道営事業での区画整理工の実施により、窪地が解消されるとともに、排水不良の状況が改善し、野菜等の高収益作物の生産も行われている。

高収益作物のたまねぎの作付け



※「事業着手年度」・「完了予定年度」欄における年度の記入は、半角数字(各年度には、昭和はS、平成はH、令和はR)を記入してください。